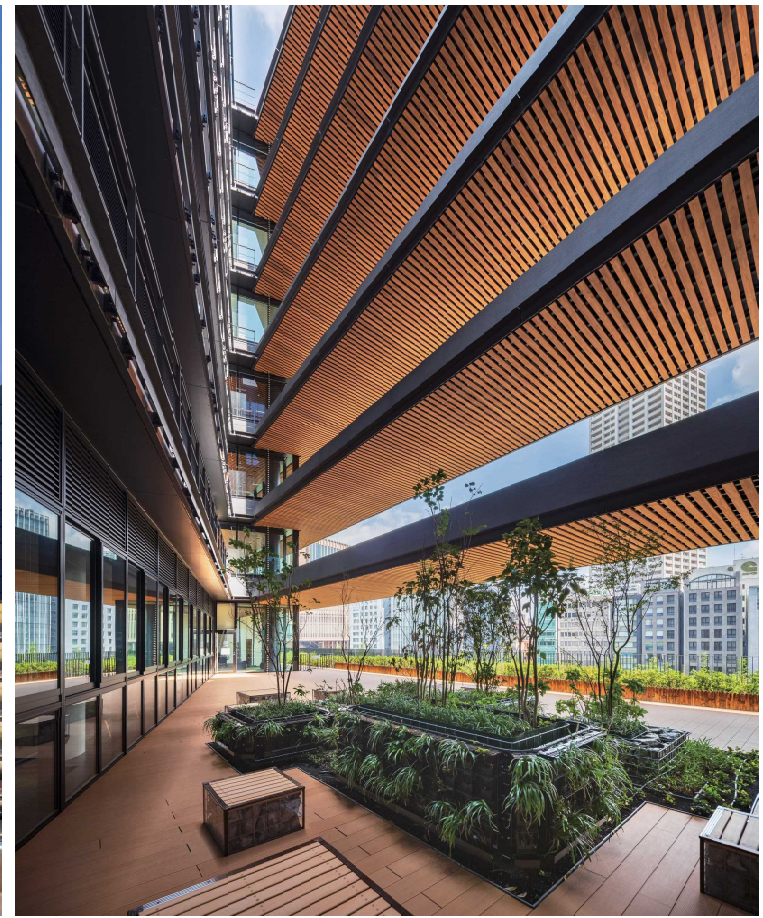


神戸市中央区役所・中央区文化センター

CHUO WARD OFFICE, CHUO WARD CULTURAL CENTER, KOBE CITY

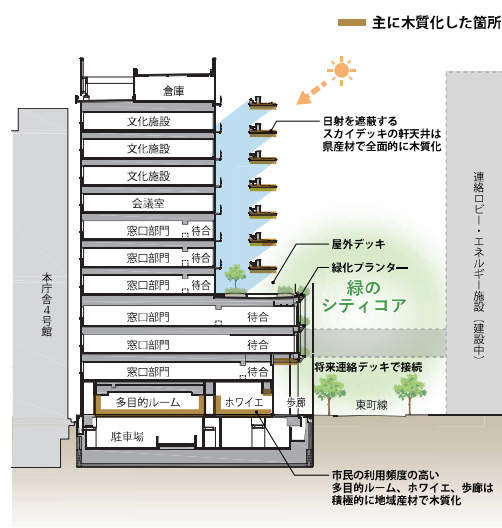


■スカイデッキによる彫りの深い東面ファサード。街路に面した街並みの一部として、夜間は間接的な光で照らし、神戸市の新たな夜間景観を象徴する



■植栽帯とスカイデッキの木質化により都市部にありながら木と緑が存分に感じられる5階屋外デッキ

行政サービスの充実を図る区役所機能と、地域活動や芸術文化活動を支援する文化交流機能による複合施設である。建物の東面ファサードに無柱の幅4m、長さ38mの大庇(スカイデッキ)を積層させ、東からの直達日射の遮蔽と室内からの開放的な眺望の確保を両立する環境装置として機能させながら、彫りの深い特徴的なファサードとした。紫外線や降雨の影響を直接受けにくい軒天仕上げには兵庫県産木材を全面的に採用し、低層部分の格子状のファサードには緑化プランターを配することで、CO₂の固定化と削減を促進し、都市部にありながら木と緑が存分に感じられる環境を形成している。前面道路(東町線)に面する1階には、まさに新たな賑わいをもたらす仕掛けとして多目的ルーム・ホワイエと、2層吹抜けの「歩廊」を配置し、内装や軒天井を積極的に地域産材で木質化することで、木質空間に迎えられる庁舎と地域産材とともにある賑わいの場を実現した。東町線に面して整備中の行政施設群に囲まれた街路空間を、街路をまたいだ行政関連施設のみならずを示すシンボル空間「緑のシティコア」として位置付け、多目的ルーム・ホワイエ等の賑わい空間、スカイデッキや歩廊の軒天井の木質化、緑化プランターによる沿道緑化によって、都市の木質化と緑化を推進する、これからの新しいまちづくりのきっかけとなる計画を目指した。



主に木質化した箇所を示した断面図 S=1/750

■主な木材使用箇所(計約38m)

- 外装(25.5㎡)
- 歩廊
 - 軒天井: ホルバー (兵庫県産材スギ)
- スカイデッキ
 - 軒天井: 木製パネル (兵庫県産材スギ)
- 内装(12.5㎡)
- 1階 ホワイエ
 - 壁: ホルバー壁 (神戸市産材スギ)
 - 天井: ホルバー天井 (兵庫県産材スギ)
 - 床: ナラ複合フローリング
 - 什器: 総合案内カウンター (神戸市産材スギ)
- 1階 多目的ルーム
 - 壁: ホルバー (兵庫県産材スギ)
 - 木タイル (神戸市産材ヒノキ)
 - 床: カバ複合フローリング
- 9階 多目的室
 - 床: ナラ複合フローリング

■建築概要

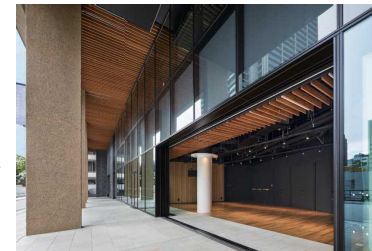
- 用途: 区役所、集会場、他
- 階数: 地上12階 地下1階 塔屋1階
- 構造: S造一部RC造、SAC造 柱頭免震
- 建物高さ: 52.78m
- 敷地面積: 3,597.22㎡
- 建築面積: 1,880.71㎡
- 延床面積: 19,341.11㎡



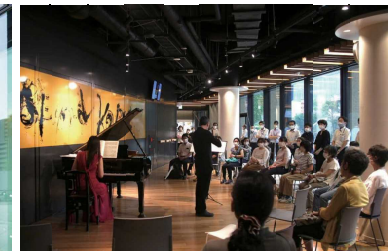
■「緑のシティコア」を担う緑化した低層部のファサード



■屋外デッキと一体空間となる5階待合スペース



■地域産材活用により木の温かみを感じられる2層吹抜けの歩廊



■「緑のシティコア」の賑わいに寄与する1階ホワイエでのイベント

地域材を使用し、産地との関係などが工夫されたもの

各関係者の協働による地域材調達

- 本施設の木質化の材料には、兵庫県産材のほか、神戸市産材を活用している。神戸市産材は、神戸市から委託を受けた木材コーディネーターが中心となり、神戸市産材を効率的に調達できるよう、神戸市、製材事業者、施工者、設計・監理者による体制を構築しながら活用した。具体的には木材コーディネーターにて立木調査を行い、調査に基づいて使用部位を決め、設計・監理者より提示した部材寸法に合わせて製材事業者によって加工の後、施工者にて供給された材に不燃処理を施し、現場加工して施工した。
- 神戸市では、市域の40%を占める森林の整備や木材活用に関わる様々な関係者との連携を図るため、2023年より「こうべ森と木のプラットフォーム」を立ち上げ、より一層地域材の活用を促進させる体制を構築している。

六甲山での間伐材活用の取り組み

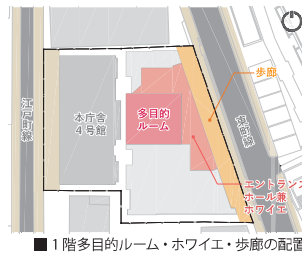
- 神戸市では2019年より森林環境譲与税を利用して私有林の整備や間伐において発生した木材の活用等の森林整備事業を行っている。2021年3月に六甲山の杉・桧の人工林の間伐を行い、その一部を本施設の内装材に活用した。杉は25mm角に製材して1階ホワイエの壁と総合案内カウンターの仕上げ材に、桧は羽目板状に加工して多目的ルームのステージバックとして活用し、森林を保全する過程で生まれた木材の地産地消を実現した。



居住性やデザイン性を高めるための工夫がされたもの

木質空間に迎えられる庁舎・地域産材とともにある賑わいの場

- 東町線に面する2層吹き抜けの「歩廊」の軒天井や、市民の利用頻度の高い1階多目的ルーム・ホワイエの内装材・什器等に兵庫県産材や神戸市産材を積極的に活用し、歩廊に沿ったファサードを開放的なガラスカーテンウォールや大型引戸で構成することにより、木による温かみのある雰囲気や東町線を行き交う人々の目線レベルで感じられる、木質空間に迎えられる庁舎を実現した。
- 多目的ルームでは、ステージバックに六甲産材の桧の羽目板を、その他3面の壁に兵庫県産材の杉のルーバーを採用し、木の自然な色味を活かした温かみのある内装デザインとし、地域産材とともにある賑わいの場を形成した。



随所に木が感じられる内装デザイン

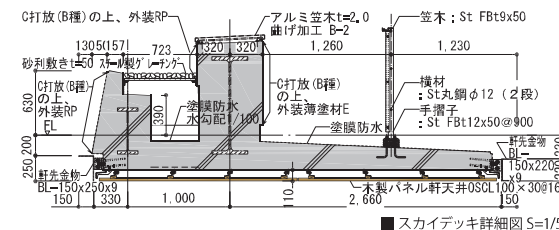
- 1階多目的ルームのドアハンドルはホワイトアッシュの天然木を削り出し、直接触れる部分でも木を感じられる、手当たりの柔らかいデザインとした。
- 区役所の窓口番号サインや文化施設の室名サイン等、随所に木製サインを採用し、温かみのあるサイン計画とした。



木材の利用を進める構法、新たな用途への工夫がされたもの

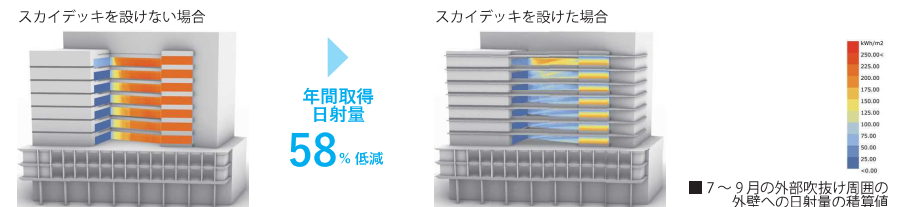
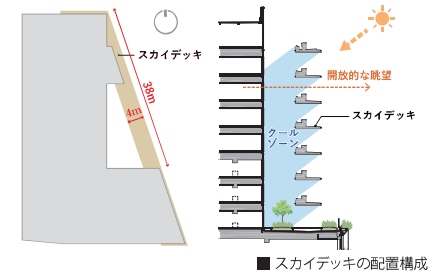
軒天への地域産材活用

- 建物の東面ファサードに積層させた無柱の幅4m、長さ38mのスカイデッキの軒天仕上げには全面的に兵庫県産材の杉板を採用している。紫外線や降雨の影響を受けにくい軒天井を木質化することで耐候性や耐久性に配慮しつつ、木と緑による特徴的な外観を実現し、都市部での新しい建築物の木質化の在り方を提案した。
- 外部で使用する木材には、木材保存剤を使用した加圧注入処理による防蟻防蟻処理を施し、劣化対策に配慮している。
- 施設全体としては、内装の木質化も含めて約38㎡の木材を活用しながらCO₂の固定化を促進する計画とした。



スカイデッキによる日射負荷低減効果

- 軒天を木質化したスカイデッキは、東からの直達日射の遮蔽と室内からの開放的な眺望の確保を両立する環境装置として機能している。
- スカイデッキによって外壁への年間取得日射量を約58%低減し、室外機容量の低減や建物の省エネルギーに貢献している。
- 外壁とスカイデッキに囲われた空間にはクールゾーンが形成され、クールゾーンを介した換気の外気取り入れや自然通風が可能な計画としている。また、外壁の表面温度の上昇を防ぎ、街路への照り返しも抑制している。
- スカイデッキによる日射負荷低減や高性能ガラス等による建物の高断熱化により、室外機容量を抑え、合理的な空調設備計画とした。さらに、汎用的で確実に省エネ効果のある機器を採用することでZEB Ready相当 (BEI = 0.49) を実現している。



その他、環境保全や街並み形成への工夫がされたもの

連続的な都市景観・象徴的な夜間景観の形成

- 7層のスカイデッキが積層する影りの深いファサードにより、通りに沿った連続的な都市景観を形成し、軒天井の全面的な木質化と低層部分の格子状のファサードに配した緑化プランターにより、都市部にありながら木と緑を存分に感じられる環境を形成している。
- 街路に面した街並みの一部として、夜間は格子状フレームやスカイデッキの軒天井を間接的な光でライトアップすることで、昼間とは異なる木質化の表情や温かみのある夜間景観を創出し、神戸市の新たな夜間景観形成に貢献している。

